

令和元年度 第11回浪岡自治区地域協議会〈概要〉

■日 時 令和元年3月26日（木）午後1時30分から

■場 所 浪岡庁舎2階 大会議室

■出席者

○委員

一戸 チエ、伊藤 芳男、小倉 保英、工藤 修一、佐藤 二彦、清野 葎子、
常田 あきえ、奈良岡 寿広、成田 昭子、前田 康弘、森 健、山内 行雄、
山谷 和寿

欠席委員：一戸 善正、奥瀬 留美子、後藤 公司、佐藤 文一、田中 美穂子、
山内 一修、山田 欣也

○職員

浪岡区長：棟方 牧人

浪岡事務所副所長：三浦 大延、浪岡事務所次長：小笠原 聡

浪岡事務所総務課長：小倉 信三、主幹：鳴海 則子、主査：葛西 麻紀子

地域づくり振興課長：木村 浩一

事務局（地域づくり振興課）：工藤 一天、田中 綾子

■会議内容

案 件

中世の里元気チャレンジ活動支援事業について

浪岡事務所総務課から、「青森市中世の里元気チャレンジ活動支援事業」について資料に基づき説明。（別添資料参照）

◎委員からの主な意見等

委員 これまで何回か評価しましたが、委員ごとに評価や見解の差が大きいと感じています。評価に当たっては、最高点や最低点をカットしたりしているのか、それともすべての平均なのでしょうか。

総務課 委員すべての方の意見を参考とするため、全員の点数を集計して平均を取っています。

委員 確かに評価が分かれることもあるが、みんなで決めることなので、評価点がそのようになれば何も言えないです。

委員 申請内容により事前に足切りをすることがあるのでしょうか。良い悪いで足切りするよりは、先人がアドバイスして良くしてあげるような体制があればよいと感じました。

総務課 今までに応募が多くて足切りした案件はなく、応募者全員に概ね希望通りの助成ができています。また、昨年から、委員の方が採点する際にコメントを書いてもらい、それを申請者にアドバイスとして伝えています。

委員 申請者からプレゼンテーションを受ける際、委員からも直接質問や意見を言っているので、みんなが納得して点数をつけているのではないのでしょうか。

委員 今回の事業の精度を上げるという話は、申請前にアドバイスできればよいと思うが、事後評価もあればより良い制度になると思います。

副所長 参考までに申し上げますと、市の補助金は、事業実施後に実績報告を出していただき、内容を確認してから支払う仕組みとなっています。令和元年度に実施した事業内容について、委員の皆様にご報告させていただく予定です。

報告

浪岡地域自治区の終了後の体制について

事務局から、第1回浪岡自治区地域協議会検討部会について報告。

令和2年3月16日に開催した会議では、浪岡自治区終了後、現在の浪岡自治区地域協議会に代わる組織について、考えられる組織のメリットデメリットを踏まえて検討しましたが、まだ取りまとめで協議会に報告できる段階ではないということになりました。

◎委員からの主な意見等

質疑等なし

その他

事務局から、新型コロナウイルスに伴う浪岡地域の公共施設について開館状況をお知らせしました。